

名刺交換をさせて頂いた皆様にお届けしています。

つくし会通信

発行：一般社団法人高齢期サポートつくし会 第4号 2016年2月

つくし会からのメッセージ

つくし会では、その活動の中で書籍や研修資料を見る機会が多くあります。また、新聞、雑誌、ネット等には様々な情報が溢れています。そして、高齢者、障がい者に対応されている皆さんの日々の想いがあります。それらのほんの一部ではありますが、一つの紙面に集約し、お届けします。業務のちょっとしたヒントに、そしてひと時の息抜きになれば幸いです。

生涯現役社会・・・皆さんはどんな社会をイメージしますか

「生涯現役社会の実現に向けた雇用・就業環境に関する検討会報告書^注」を読んで思ったこと

ネット資料を見ていて、「生涯現役社会」という言葉にインパクトを感じ、標題の報告書に目を通してみました。厚生労働省の職業安定局が2015年6月に取りまとめたものです。(注) 報告書名で検索できます。

この標題を見て、私は直感的に「年金70歳支給のための社会」と感じましたが、勿論、そんな底の浅い話ではなく、個人の生き方、国、企業、地域自治体などが相互に関連した、我が国の将来社会の全般に深く関わる大変大きなテーマです。

そして、いろいろ資料を見ているうち、この検討会座長をされた慶応大学の清家篤塾長が商学部教授時代(平成14年)に行った講演録^注を見つけました。13年前の講演ではありますが、この報告書のベースとなる考えが概ね語られています。(注)「清家 生涯現役社会の条件 講演」で検索できます。

生涯現役社会を語る時、定年制の問題は避けて通ることはできません。13年も前の講演ではありますが、上記講演の中に、定年制に関する興味深いメッセージがあります。今はしごく当たり前の定年制も、将来的には廃止の方向なのかも知れませんね。

(注) 以下は、清家先生が、平成14年1月に「生涯現役社会の条件」のテーマで行った講演の抜粋です。

職業人生選択を自分の手に取り戻す

私が定年をやめようというのは、もちろん生涯現役という視点もありますが、もう一つ大切なのはやはり職業人生を自分の手に取り戻そうではないかということです。

つまり、いつ働き始めるかとかいつ引退するかといったことは、職業人生にとって大切な選択です。さすがにいつ働き始めるかについてはだんだん自由になってきました。高校を卒業した時点で働くのか、大学を卒業した時点で働くのか、あるいは大学院まで行くのか。あるいは、もう少しフリーターをやってから働くのか。良いか悪いかは別にして、働き始める時期は18歳、22歳、25歳といったように相当ばらけてきています。にもかかわらず、会社を辞める時期だけは60歳とかなり一律になっているのはおかしいと思います。



つまり、定年をやめるということは、やめる時期を個人の選択に委ねることです。多様であれば、むしろ一律に決めるほうがおかしいのであって、55歳で辞めるのがいい人もいるかもしれないし、70歳まで働くのがいい人もいるかもしれません。それを個人個人に選ばせてあげるようにしたらどうですかというのが、この定年破壊の考え方です。その意味で、職業人生を自分の手に取り戻すためにも、定年制度を廃止していく必要があるのではないかと。つまり、いつ働き始めるか、あるいはいつ仕事をやめるのか、いつ今度は仕事以外のことで自己実現を図るような社会に入っていくのか。それはやはり自分自身が決めるべきことであって、会社が一律に定年とか、あるいは国が一律に年金の支給開始年齢といったもので決める種類のものではないと思います。

介護予防関係の研修会レポート

介護予防の研修会に参加してきました。いずれも、医療法人溪仁会札幌西円山病院が開催したものです。各研修会とも市民向けの初歩的な内容でしたが、初めての知識、経験を楽しむことができました。

○平成27年12月19日 医療公開講座「最後までおいしく食べるために～口腔ケアと誤嚥性肺炎～」講師 藤本篤士歯科医師 橋本茂樹医師（画像なし）

高齢者の肺炎の70%以上が誤嚥によるものであること、肺炎による死亡が脳血管疾患を押しつけて死因の3位に浮上していることは初めて知りました。また、胃瘻（いろいろ、経管栄養）は喉の力を弱め、必ずしも誤嚥の回避につながらないのですね。

○平成27年12月26日 スマイルカフェ「心と体のリラックス：アロマセラピー 体験：ハンドマッサージ」講師 三浦直子 緩和ケア認定看護師

ミニ講座として三浦看護師からアロマセラピーの基礎的なお話があり、その後、参加者同士によるハンドマッサージ体験。アロマセラピーの有用性については、鳥取大学医学部を始めとして立証研究が行われているとのこと。

この体験からは、医学的な証明は別にしても、ハンドマッサージはもっと別の次元で価値あると感じました。



○平成28年1月23日 医療公開講座 「認知症の理解と予防について」講師 瀬野由紀子 作業療法士 白川由美 認知症看護認定看護師

認知症の基礎知識と予防についての考え方、そして認知症の人との関わり方についての講座でした。2025年には65歳以上の5人に一人が認知症と予測されています。講座は「認知症サポーター養成講座」でもあり、私（富舂）は、晴れて認知症サポーターとしてオレンジリングを頂いて参りました。

遅まきながら、そして微力ではありますが認知症の方、その家族の皆様のお役に立って参りたいと思います。



（投稿）今、私は・・・みどりの丘指定居宅介護事業所 管理者 瀬戸幸司

ケアマネとして働く期間が、前職の介護士を上回りました。介護士の時はまれにしかスーツを着る機会がありませんでした。そのため、ケアマネとして経験が浅いころは、スーツ姿で以前の同僚に会うのはどこか気恥ずかしく、ずいぶん冷やかされたのを覚えています。

平成12年度より始まりまった介護保険制度は、紆余曲折を経ながらも我が国において欠かせないものになっていると思います。とはいえ、身内などが介護を必要になるまでは真剣に考えることが少ないというのが、ケアマネ実務を重ねた上での実感です。現実を直視するのが怖いという側面もあるのではないのでしょうか。

また、今後はいわゆる「おひとりさま」の老後が増えていくことが、予想されております。加えて、近郊や道内には身寄りがいない、身寄りがいても高齢であるケースも、確実に増えております。そういった意味でも、つくし会さんのような存在は、ケアマネにとっても大変心強いです。私自身も「おひとりさま」へ向けてまっしぐらなので、公私ともに今後ともお世話になりたいと考えております。

一般社団法人 高齢期サポートつくし会	検索	(文責) 代表理事 富舂 和夫
住所：〒006-0851 札幌市手稲区星置1条1丁目9番8号		
TEL：011-215-6972 FAX：011-215-6973		
E-mail：k-tmms@f7.dion.ne.jp つくし会通信は隔月発行です。		

お願い：今後この「つくし会通信」の送付をご希望されない場合は、恐縮ですが TEL、FAX、E-mail いずれの方法でも結構ですのでご連絡ください。